

エニユオに敗北し、
肉体を改造された
私の前に現れたのは…

星晶獣を孕ませるために
作られた異形

幽世の何か…

抵抗力を失った
私を捕縛し
その性器を
捻じ込んだのです

「だめっそこは…っ!!!」

「やめ…やめなさい!!!」

その異形から
湧き出てきた
無数の触手は—



「あああああっつっ!!」

太い…太すぎる!!!

膣壁を削りながら
私のアソコに
殺到してきて…っつ!!

壊れてしまいうっつ!!

「アハハッ!!!
とても良い叫び声ですよ
アテナ」

「その苦悦の声
待ち望んだ甲斐が
あったものです」



「そのオマシコ
まだ余裕が
ありそうですね」

「よせー!」

1本でも暴れまわる
触手に苦しんでいた
私のアソコに容赦なく
追加される触手

「あああああっつ!!」

でも…本番は
こんなものでは
なかった…

触手は膣内で
さらに
暴れまわり――

硬く閉ざされた
子宮口を貫いて
きたのです――

「さあぁファイナルです！」

この醜い触手の子種を
子宮の中になっぶり
出してもらうといいわ！

触手の動きがさらに
激しく子宮と直腸で
暴れまわる

「あぁあっ！」

「やめっ!!」

「いあやああっ!!」

「子…宮…につり」

「あははっ、言い忘れてました」

「その触手は、確実に
受精させるために
母体の子宮にまで
入るそうですよ、フフフ」



「一斉に子種を吐き出す触手たち」

「両手両足を広げられ大事どころ全てを晒されたその状態では」

「洪水のように流れてくる子種を」

「限界まで広げられた無防備な子宮の最奥で受け止めるしかありませんでした」

「あああああ!!」
「体内：膣内にいる!!」

「触手で膨らんでいたお腹はさらに勢いよく押し上げられ」

「濁流の波はあつという間に子宮を満たし」

「人とはかけ離れた子種たちの恐ろしいまでの繁殖が始まったのです」

「星晶獣ゆえに子宮内部で何が起こっているのかがわかってしまう悲劇」

「受精」とは到底言えないまるで一つの生物の「捕食」のような

「卵管に溜っていた生まれたての卵は一瞬で飲み込まれ」

「喰らいつかれた卵巣は犯されその力を奪われていったのです」

「言葉にならないほどの快楽と絶頂」

「数千…数万…およそ数年分の卵子が吸収され」

「それと同じ数だけの快楽が私を襲った頃」

「意識は完全に闇の中へと沈んでいきました」



そして

「あはっ!!」

「産まれてますよ!!」

「また醜い触手の子が
貴方のオマンコからね!」

私は幽世の先兵を作り出す
母体の一つにされて
しまったのです



幽世の技術で作られた
生体装置に繋がれ:

お腹の子に力を
奪われながら出産を
繰り返していました

「お乳をこんなに吹き出して
ほんと、だらしない
お母さんですね、貴方は!」

「綺麗だった貴方のアソコも
今では醜く涎を垂らして
汚らしい怪物を産むだけの穴」

「ああ…なんて惨めな
姿なんでしょう」

彼女の言う通り
守護と平和を司る
星晶獣である私の子宮は…

もはや陣痛と出産で何度も
絶頂をしてしまうほど淫らに
なっており…

本来硬く閉ざされた
子宮口をだらしなく
広げながら

平和を脅かす魔獣を
何度も出産する子袋に
なり果ててしまいました…

「でも安心して
くださいアテナ」

「貴方がどんな姿になっても
ずうっとバズーっと
可愛がつて差し上げますよ」

「いつまでも…
貴方が壊れるまで…」

すぐそばでエニユオが
ささやいてくる…

この狂気に満ちた後景は
続くだろう…

「私」という
玩具が壊れるまで…